



呼吸器外科医療録⑦

日進月歩の 肺がん治療



現在、肺がんの標準的な治療法は、手術、放射線と抗がん剤です。腫瘍の大きさや状態、リンパ節、全身への転移により選択します。手術は、腫瘍とリンパ節転移が広く拡がっていない場合に選択されます。

また、肺を切除するには肺機能や心機能も重要です。日本の統計で肺がん手術の約70～80%が内視鏡手術です。以前は20～30cmの傷で肋骨を切るのが標準でしたが、今は数cmの傷を3～5か所作る胸腔鏡手術が主流となり、さらに数cmの傷が1か所のワンポート胸腔鏡手術や多関節の

道具と3Dの視野で行うロボット手術も出てきました。

呼吸器外科の最近のトピックスでは、進行している切除可能な肺がんに対して、手術前に抗がん剤治療を行い、腫瘍をコントロールした状態で手術に臨むことで、今までよりも術後の成績が改善しています。また、CTの普及でがんが小さいうちから発見され、従来標準とされてきた肺の切除範囲を縮小した区域切除も選択できるようになりました。

けんこうQ&A 在宅医療⑦

在宅医療と介護保険の 上手な活用は？



在宅医療を利用すると「介護保険も必要ですか？」という質問をよく受けます。実は、在宅医療と介護保険は目的が異なり、お互いを補いながら利用する仕組みになっています。

在宅医療は、医師の診察や薬の処方、医学的な管理など「医療」を支える制度です。一方、介護保険は、入浴や排せつ、食事などの日常生活の支援や福祉用具の利用、デイサービス、訪問介護など「生活」を支える制度です。どちらか一方だけではなく、両方を組み合わせることで、住み慣れた自宅でも安心して生活を続けやすく

なります。

また、介護保険を利用するためには、要介護認定を受ける必要があります。介護保険の利用を考え始めたら、まずは市役所や地域包括支援センターに相談してみましょう。

「医療」と「介護」を別々に考えるのではなく、両方を上手に活用することが、自宅で安心して暮らし続けるための大切なポイントです。

